

折々の記 No191 : 失敗続きの日本の危機管理！

(平成 24 年 4 月 18 日記)

中国漁船の巡視船への衝突事件、福島第一原発事故、そして今般の 4 月 13 日北朝鮮による人工衛星と称するミサイル発射事件、何れの場合においても我が国の国家中枢における危機管理は失敗だらけである。特に今回は、事前に発射期間も発射位置も判明しているにも拘らずである。情報伝達状況は左図の読売新聞記事の通りである。

① 米軍の早期警戒衛星情報の報告を受けながら、日本のレーダーによる確認に拘り結果的に国民に対する情報伝達が遅れた。ダブルチェックをするような時間的余裕があるものなのか？第一報として発射情報を直ちに公表して、次報でその後に判明した事項を公表すれば良い筈だ。

(追記 4 月 1 9 日朝)

MSN によれば、航空自衛隊の地上部隊が、ミサイルの位置情報を知らせる【テレメトリー】を探知していた。また、海上自衛隊の電子偵察機(E P 3)も電 波を探知し、その情報は中央指揮所にも報告された。

地上レーダーでは確認できなかったとしても、このような方法で情報を収集していたのである。

◆北朝鮮のミサイル発射後の情報伝達
(内閣官房・防衛省まとめ)

13日 7:40頃	防衛省が米軍の早期警戒情報(SEW)を受信
7:42	野田首相と藤村官房長官、米村敏朗内閣危機管理監がSEWを入手
7:50頃	統合幕僚長から田中防衛相に「目標をロストした」と報告
8:00頃	統合幕僚副長から田中防衛相に「0740に何らかの飛翔(ひしょう)体が発射。洋上に落下した模様」と報告
8:00～ 8:05頃	防衛省運用企画局長が首相官邸の危機管理センターで米村内閣危機管理監に、「SEW情報を得られたが確認中で、我が国のレーダーでは確認していない」と報告
8:03頃	田中防衛相から藤村官房長官に電話連絡
8:03	政府がエムネットの第1報で「発射を確認していない」と発表
8:06頃	統幕長から田中防衛相に「飛翔体は1分以上飛行し落下」と報告
8:13頃	田中防衛相が藤村官房長官に再度電話連絡
8:16	防衛省から危機管理センターに「飛翔体が発射され、洋上に落下」などと資料送信
8:23	田中防衛相が「飛翔体が発射された」と記者会見
8:25	防衛省から危機管理センターに「7時40分頃、SEW確認」などと資料送信
8:37	藤村官房長官が1回目の記者会見
11:00頃	政府として、飛翔体が北朝鮮のミサイルだと確認

②防衛相と官房長官の情報共有にも問題があったようだ。

③発射し1分以上飛翔し、洋上に落下等の情報が逐次に報告されているにも拘らず、その内容が適切に公表されていない。

④防衛相等の政務3役は、発射直後に執務室から地下の中央指揮所に移動したとのことだが、この緊要な時期にそのような必要があったのか？

⑤色々な情報が後からぼろぼろ出てくるような気がする。一体誰が統括しているのか？

⑥安保理が北朝鮮のミサイル発射を非難する議長声明を速やかに発出したことは評価されて良い。然しながら、議長声明では如何にも弱い。中露の対応に問題がある。今までの北朝鮮によるミサイル発射や地下核実験に対して、安保理決議や議長声明を発出しているが、何ら効果を発揮していない。北朝鮮は、一片の決議や声明が発出されようと何ら痛痒を感じない。今まで何度煮え湯を飲まされたのか、それが解っていないながら、このような形でしか非難出来ない。行動を起こすべき段階に来ている。

如何なる具体的行動を起こすかを真剣に考えなければならない。